

西南学院広報誌

# 赤煉瓦通信

～一粒の麦から～

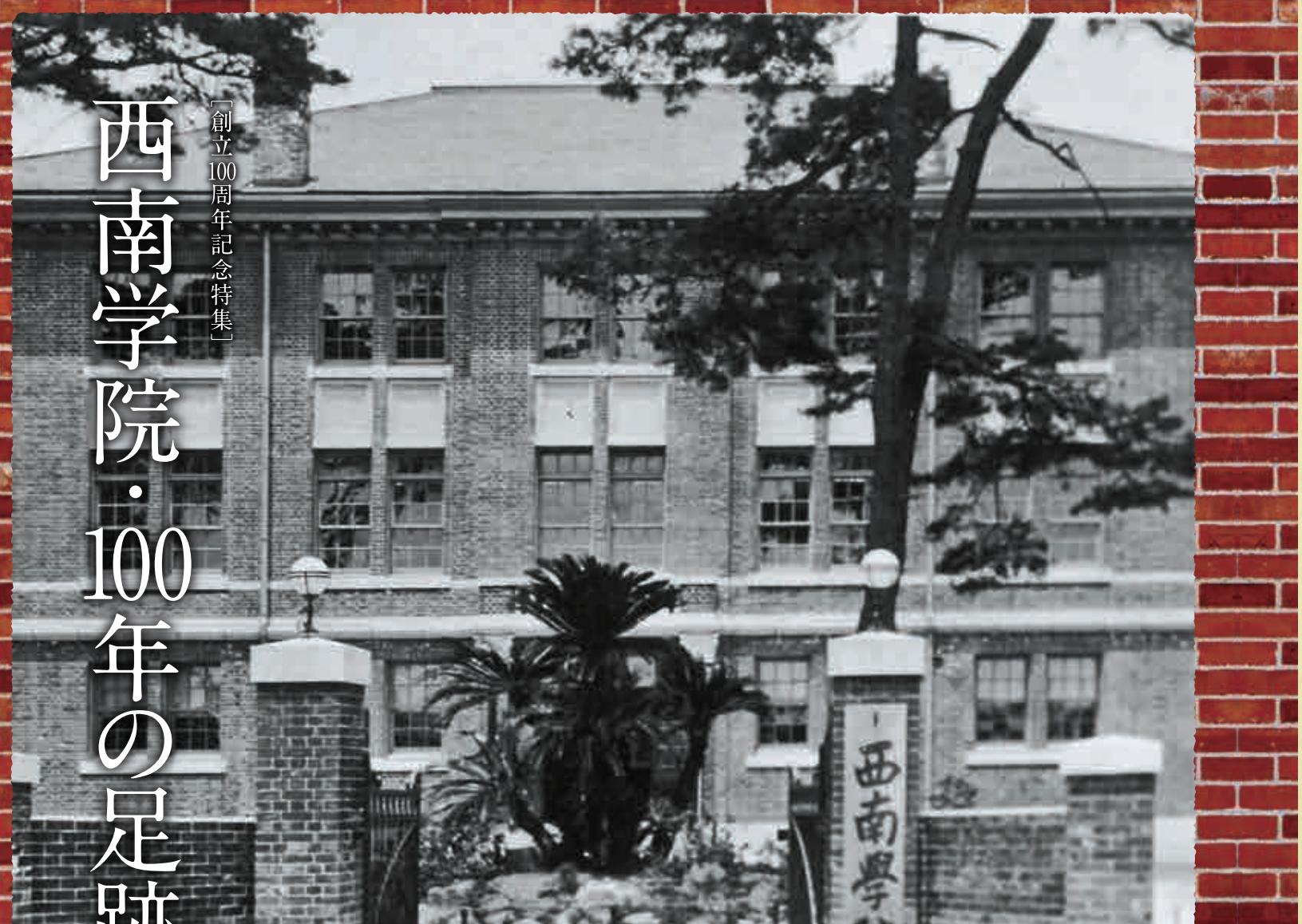
西南学院・100年の足跡



西南学院旧本館（現：大学博物館（ドージャー記念館））  
[1921年竣工時撮影]

あか  
れん  
が

2016  
Vol. 2  
□ 第2号 □



一粒の麦から、  
次の100年に向かって

## 西南学院 創立100周年記念 記念式典・講演会

入場無料（招待者）事前応募者

[日時] 2016年5月14日(土)  
13:30～(開場12:30～)

[会場] 福岡国際会議場  
福岡市博多区石城町2-1

※ 同窓生については、座席数の関係上、事前に参加申し込みを  
いただいた方のみのご招待となりますことをご了承ください。  
[参加申込受付は終了しました]

- ①未来宣言
- ②建学の精神の継承と実行宣誓

[講演会] 講師:中村 哲氏

医師、ペシャワール会現地代表、ピー<sup>ス</sup>ジャパン・メディカルサービス(PMS)  
総院長(中学校S37年卒)



中村 哲氏

司会／原田 徹(NHK福岡放送局・大学78期)  
四位 知加子(TNCテレビ西日本・大学10期)

オール西南の出演者で100周年記念祝賀会を盛り上げます

[日時] 2016年5月14日(土) 受付15:00～

### 合同同窓会総会

16:30～(開場16:00～)

マリンメッセ福岡 3階(サブアリーナ)  
福岡市博多区沖浜町7-1  
司会／龍山 康朗(RKB毎日放送・中学校S57年卒)

15:00～  
マリンメッセ福岡 2階 海のモール

・展示コーナー  
・ステージパフォーマンス  
・西南学院オリジナルグッズ等販売

### 記念祝賀会

「集え西南 愛と自由をたずさえて」

18:00～(開場17:00～/終了20:30予定)

マリンメッセ福岡 1階(メインアリーナ)  
司会／木村 匡也(ナレーター・高校S59年卒、大学89期)  
山口 玲香(タレント、キャスター・高校H12年卒)



財津 和夫さん  
(大学)



伊東 たけしさん  
(高校)



杉 真理さん  
(高校)



陣内 孝則さん  
(高校)



井上 芳雄さん  
(幼稚園・高校)



西南学院  
ゆかりの  
スペシャルゲストも  
出演予定

在校生、同窓生による  
ステージアトラクション

●西南学院高等学校  
●西南学院大学 応援指導部吹奏楽団、応援指導部チアリーダー、  
吹奏楽部、合唱部

●同窓生  
チャペルクワイア、フラウエン・コール、グリークラブ  
西南学院ゴスペルクワイア

※プログラムは変更になる場合がございます。

主催: 西南学院 西南学院同窓会連合会

西南学院100周年 検索  
<http://www.seinan-gakuin.jp/100aniv/>

【“一粒の麦”について】 「一粒の麦」は、イエス・キリストが最後の晩餐で言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりもまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくこそが創立者の思いであり、それは今もなお大切に受け継がれています。

学校法人 西南学院 <http://www.seinan-gakuin.jp>

西南学院大学・大学院／西南学院中学校・高等学校／西南学院小学校  
西南学院舞鶴幼稚園／西南学院早緑子供の園(保育所)

西南学院広報誌  
赤煉瓦通信 ~一粒の麦から~  
2016年4月25日発行(年1回発行)  
学校法人西南学院 総務部 広報課  
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92  
TEL.092-823-3248

西南学院

# 創立者への思い

9年前、創立100周年の準備が始まった時から大切にしてきた」との「は原点に立ち返り、建学の精神を再確認した上で、次の世代の社会のためにどのような教育をすべきか、ということでした。この100年間に西南学院に関わった教職員や卒業生で、「西南よ、キリストに忠実なれ」という言葉を知らない方はいらっしゃらないと思います。ご存知のとおり、この言葉は創立者C.K.ドージャーが残されたものです。

ドージャー先生について調べると、先生の精神を一番よく示しているのは、西南学院の建学の精神と同じく「キリストに忠実なれ」とだと思います。おそらく、ドージャー先生は毎日「Charles, today be true to Christ」と囁いたり祈つたりしたことでしょう。自分は人生を通して、何よりもキリストに忠実であることを目指して生活をされていました。

もう一つ考えられるのが、ドージャー先生が自身は「諦めない人」であったということです。福岡で日本の将来と福音宣教のために学校が必要であるという「声」が与えられてから、数年間にわたり、日本国内の宣教団とアメリカにある本部と何通もの手紙で交渉を続け、西南学院の創設を果たされました。ご自分の使命を達成するために、ドージャー先生は大変な苦労をされたと思います。

西南学院は、これから100年の歩みを続けるために、創立者のキリストへの忠実さと諦めない精神と誠実さが必要です。そして、西南学院に連なる個々人も、学院創立者の人生から学び、与えられている使命を達成できるようにお祈りいたします。



西南学院理事長・院長  
G.W.パークレー

写真:C.K.ドージャーの日記と愛用の聖書

## 西南学院広報誌 赤煉瓦通信

～一粒の麦から～

Vol.2 第2号 2016

西南学院

院長コラム	1
[特集]西南学院・100年の足跡	2
学院メモリアル	9
学びの現場から	10
[特集2]創立100周年記念対談	11
創立100周年・卒業生からのメッセージ	13
SEINAN TOPICS	15
学院のフィールド	19
西南学院概要	20
西南学院からのお知らせ	22

表紙の写真:西南学院旧本館  
(現:大学博物館(ドージャー記念館))  
1921年に西南学院本館として竣工した建築物。当時は中学校本館・講堂として使用され、その後中学校・高等学校の講堂として使用されました。そして、2003年、中学校・高等学校的百道浜キャンパス移転に伴い一部改修し、2006年に大学博物館(ドージャー記念館)として開館しました。現在もほぼ竣工当時のままの姿で、一般公開されています。

**西南学院・100年の足跡**

[創立100周年記念特集]

キリスト教を基盤とした独自の教育を実践しながら、キリスト教の人間観、世界観に立ち、奉仕の精神をもって社会に貢献する人を輩出してきた西南学院。多くの苦難を乗り越えて迎えた100年の道のりを当時の写真とともにたどります。

創立当時の在校生及び教職員。生徒104人、教職員9人の小規模な男子中学校であった。  
(前から4列目中央は創立者C.K.ドージャー) [1916年撮影]

# 黎明期

1916年に西南学院の歴史が始まりました。その後、次々に学校を新設・改組しましたが、すべてが順風満帆とはいきませんでした。創立者C.K.ドージャー院長が辞任に追い込まれた日曜日問題、戦時下混乱の中での起きたキリスト教批判といった、数多くの苦難を乗り越えなくてはならなかつた時代です。

## 「開学前史」

1906

1907

1911

1916

1921

1933

1940

1941

## 「西南学院の開学」



左から西南学院創立者C.K.ドージャー、J.H.ロウ(初代理事長、西南女学院創立者)、G.W.ポールデン(第3代院長)。3人は南部バプテスト神学校の同期生で、宣教師として1906年9月、ヨーロッパ号で日本に派遣された。[1913年頃、東京の戸山ヶ原にて]



創立の頃の西南学院。大名町105番地にバプテスト宣教師社団が所有していた福岡バプテスト神学校校舎を仮校舎としていた。



中学部第1回卒業生及び教職員。卒業生29名のうち13名が新設の高等学部に進学した。



1918年、早良郡西新町へ移転。第1(東)校舎が完成。



小倉に転居したC.K.ドージャーは、1933年5月31日に召天。葬儀は、同年6月2日、小倉の西南女学院講堂において挙行された。写真は、失意の中で棺をなう教え子たち。



この頃、軍事色が強くなり、学生生徒は正門で御真影に最敬礼しなければならなかった。写真は、本館前で御真影(昭和天皇、皇后の写真)を奉載する水町義夫院長[1937年4月22日]



西南学院旧本館講堂で行われた宣教師引き揚げ送別会の時の写真。後方には大きな日の丸の旗が掲げられている。ドージャー一家もC.K.ドージャーの墓石に涙の別れを告げ日本を去った。

M.B.ドージャーや宣教師たちが日本と関係緊迫のためアメリカへ引き揚げる(写真8)。

1941

1933

## 「苦難と忍耐」

自らも重い障害を背負いながら、世界各地を歴訪し、身体障害者の教育・福祉に尽力したヘレン・ケラーが来学し、福岡女学院と共に講演会を開催。(写真7)

キリスト教への圧力が強まる中、学院の苦難の時代が続いた。(写真6)

ドージャー院長は日曜日問題の責任を取り辞任(1929年)。小倉に移り住んだが、持病の狭心症により西南女学院において永眠した。(写真5)

西南学院本館(現・大学博物館)が竣工。現存する学院最古の建築物で2階は現在もチャペル(講堂)として使用されている。

西南学院中部の第1回卒業式が行われ、あわせて西南学院高等学部(文科・商科)を開設する。(写真4)

C.K.ドージャーが創立者となり、福岡市大名町(現・中央区赤坂)に旧制男子中学校の「私立西南学院」を開設。生徒104人で始まる。(写真2)

前年に早良郡(現・福岡市)西新町に19,800m<sup>2</sup>(現・大学東キャンパス)の校地を取得。1918年に第1(東)校舎の完成と同時に移転した。(写真3)

福岡バプテスト神学校の移転跡地に福音バプテスト夜学校を開設し、C.K.ドージャーが校長となる。

在日宣教師団の手によって福岡バプテス

ト神学校開設。

米国南部バプテスト派宣教師C.K.ドージャー、G.W.ポールデン、J.H.ロウの3夫妻来日する。(写真1)

ドージャーが校長となる。

1937

1933

1941

# 発展期

戦時の苦難を乗り越えた西南学院は、戦後の混乱の中で、着々と発展の道を歩み始めました。さまざまな施設も相次いで竣工し、西南学院の名が広く知られることとなりました。日本経済の成長とともに、西南学院が躍進を続けた時代です。

## 「再出発への努力」

1947

西南学院中学校（新制）開設。  
（写真9）

1948

西南学院高等学校（新制）開設。  
（写真10）

1949

西南学院大学（新制）開設。  
英文学、商学（専門学校第二部を母体）開設。  
（写真11）

1950

西南学院大学短期大学部児童教育科（福岡保育専攻学校を母体）、英語科・商科（専門学校第二部を母体）開設。

1952

西南学院大学短期大学部児童教育科（福岡保育専攻学校を母体）、英語科・商科（専門学校第二部を母体）開設。

1953

西南学院大学ラグビー部が全国大会で3年連続優勝。その他に野球部、空手道部、ヨット部、グリークラブ、ESSなど華やかに活躍した。（写真12）

1954

大学のキリスト教教育の中心としてランキン・チャペルが竣工し、さまざまな式典などに利用される。（写真13）

1960

学生運動は、法学部新設反対運動に始まり、エンタープライズ寄港阻止、70年安保反対闘争と政治色を強めていった。

1966

大学体育館が竣工したのを皮切りに大学プール、5号館、西南会館、本館、自然科学館と施設が次々に建設された。（写真14）

1969

大学の千隈グラウンドを整備し、体育合宿所を設けるなど体育会全盛時代の基礎を支えた。

1971

米国ペイラー大学と姉妹校宣言文を交換し、本格的に国際交流をスタートさせる。（写真15）

1974

学院創立70周年記念行事でコレッタ・S・キング（キング牧師夫人）が来校。「愛のちから」と題して記念講演を行う。（写真16）

1976

博多湾埋立地の約75,000m<sup>2</sup>（百道浜校地）を取得。（写真17）

2001

西南学院高等学校が男女共学へ移行。（写真18）

## 「発展と成熟」

1987



16

福岡市から購入した百道浜校地。西南学院の将来計画の大きな布石となり、現在、小学校、中学校・高等学校の校地として活用されている。



17

学院創立70周年記念事業の一環として設置された、北ドイツ・バロック様式のパイオルガン。1986年7月から新設工事着工、1987年10月に完成。11月28日に奉納式が行われた。

1994



創立当時から男子学校だった中学校、高等学校が、1994年（高等学校）、1996年（中学校）にそれぞれ男女共学に。合わせて1996年から一貫教育を実施することになり、西南学院は新たな一步を踏み出した。

1969



14

1969年に体育館、1970年にプール、1971年に5号館と西南会館、1972年に本館、1974年に自然科学館と、施設は続々と建設され、西南学院大学は名実ともに成長していった。写真は、西日本最大規模といわれた体育館。

1971



15

1971年、米国ペイラー大学と姉妹校宣言文交換。写真前列は、姉妹校宣言文に調印する船越栄一学長とペイラー大学A.V.マコール総長。後列中央は、国際交流推進において中心的役割を果たした大内和臣法医学部教授[1971年7月12日ペイラー大学にて]

1953



12

ラグビー部は1951年から1962年まで学生ラグビー界に全日本の雄として君臨した。写真の前列中央は、創立期からラグビー部を支えてきた速水伝吉監督。

1954



13

1954年9月、キリスト教教育のシンボル、ランキン・チャペルが竣工。音響効果も配慮された収容人員約1,500人の大ホールでは、完成以来、入学式、卒業式など学内の重要な行事には必ず使われた。

1949



11



9



10

西南学院中学校と同じく男子校として西南学院高等学校が開設された。校舎は、旧制中学部の校舎がそのまま使用された。



4月、神学、英文学、商学の3専攻で芸術部が定員130名で開設し、W.M.ギャロット院長が初代院長を兼任。写真は新制大学設立に尽力したギャロット院長と西日本新聞に掲載された学生募集の広告。

## 創立100周年記念事業

西南学院百年館  
(松緑館)2016年3月竣工  
～10月22日、開館予定～

西南学院の創立100周年を記念して建設が進んでいた『西南学院百年館(松緑館)』が2016年3月18日に竣工し、4月7日に献堂式が行われました。名称は多数の応募により選ばれたもので、学院の創立100周年を記念し、「西南学院のイメージとは?」という問い合わせから、学院を想起させるものということで、この名称を採用しました。

西南学院の校歌に「松の緑 青春の色」という歌詞があることも選定の理由です。



『西南学院百年館(松緑館)』は、「建学の精神の継承」「生徒・学生・教職員の学び」「同窓生・地域との交流」の拠点を目指し、西南学院史資料センター展示室、研修会・交流会など多目的に活用できるホールや同窓会関連施設などを備えた建物です。

1 and Next

2016

2014

2013

2010

2009

2008

2007

2006

2005

2004

2003

2002

2001

西南学院創立100周年。

西南学院新本館竣工。(写真26)

西南学院東京オフィス開設。

## 「さらなる発展へ」

2009



2009年10月、総面積13.5haの田尻グリーンフィールドが完成。各種競技を専用グラウンドで行うことが可能になった。(写真24)

24

2010



2010年、西南学院小学校の誕生で西南学院は総合学園として新たな一步を踏み出した。オープンスペースや教員スペースを設けるなど、心理面・教育面に配慮した設計になっている。

2014年3月、大学東キャンパスに西南学院新本館が完成。4階建てで、西南学院本部としての機能を有し、災害時には対策本部としての役割も担っている。

26

2004



2004年10月にオープンした西南クロスプラザ。1階には250席のカフェテリア方式の食堂と72席の学生ラウンジがある。名称の「クロス」には、「十字架」という意味と人の交流という意味が込められている。

21

2008



2006年、老朽化によりランキン・チャペルが惜しまれながら取り壊された。建替わった大学新チャペルは2008年3月に竣工、4月に献堂式が行われた。904人収容で、チャペルを中心とした講演会、コンサートなどが催されている。

23

2007



2007年7月より、福岡市の委託を受け大学が運営している西南子どもプラザ。乳幼児親子の交流の場の提供、子育てに関する保健師・栄養士による育児相談、子育てに関する情報提供、子育てミニ講座などを実施している。

22

舞鶴幼稚園・早綠子供の園新園舎完成。(写真19)

中学校・高等学校が新校舎の完成とともに百道浜校地に移転。(写真20)

赤レンガが基調のモダンな外観の西南クロスプラザ(大学食堂他)が完成する。(写真21)



2002年に園舎を全面改築。10月に新園舎は完成し、11月に献堂式が行われた。新しい園舎で、気持ちよく保育が行われ、園児たちも伸び伸びと遊べるようになった。(写真19)



2003年2月に百道浜校地に新校舎が完成。省エネルギーを考えて雨水利用の設備を入れ、屋上的一部分をルーフガーデンにしており、省エネルギー機構(IEBC)の、サステナブル建築・住宅賞に採択された。

20

## 飛翔期

21世紀に入り、激しく変化する学院内外の環境に柔軟に対応し、社会のニーズにも応えることができる学院を目指し、西南学院は大きく飛躍しました。中でも、2010年に西南学院小学校の誕生により総合学園となつたのは大きな出来事でした。



[特集2]

創立100周年記念  
対談G.W.バークレー  
西南学院理事長・院長

## 地域から世界へ、世界から地域へ。

バークレー／西南学院は、今年で創立100周年を迎えることになりました。卒業生は延べ14万人を超えており、これも地域の皆様の温かいご支援の賜物と感謝しております。

磯山／創立当初から今日に至るまで、キリスト教の精神を基盤に教育を続け、地域を支える多くの人材を輩出されてきたことに、私も敬意を表したいと思います。しかし、100年の長い年月の間には、苦労もあったことがあります。

## 地域を支える人材を輩出してきた西南学院

磯山／私は昭和39年に西南学院中学校に入学しましたが、当時はすぐそばに海があり、松の緑がきれいでした。毎週日曜日の午前中は、教会に行っていました。教会の後、宣教師のお家に招待されることがあったのですが、暮らしのスタイルがわが家とは違っていて、純和式の家で育った私にはカルチャーショックでしたね。初めて食べたパンケーキの味は忘れられません。西南学院中学校で西洋の文化や考え方につれたことで、アメリカへの憧れが強くなりました。そして、いつか海外で働いてみたいと思うようになりました。現在仕事で海外との取引に携わることもありますが、この中学時代の体験が原点でした。

## 真のグローバル人材の育成に期待

バークレー／会頭というお立場から、西南学院をはじめ、福岡で学ぶ多くの留学生の皆さんですが、卒業後も福岡で活躍できる場が広がれば、本当の意味での国際化が進むのではないかと思っています。

創立100周年を記念して、福岡商工会議所会頭の磯山誠二氏とG.W.バークレー院長の対談を行いました。磯山氏は西南学院中学校のご出身です。

今回の対談では、本学と地域の関わり、地域貢献や国際貢献のあり方などについて語り合っていただきました。

バークレー／はい。100年の歴史を振り返ると、決して楽な時代ばかりではなく、苦難の時代もありました。しかし、絶えず建学の精神を大切にしながら歩んできたおかげで、今日を迎えることができたと思います。創立者の想いを受け継ぎ、今では世の中から“語学の西南”として認知されるようになりました。これは多くの卒業生の活躍のおかげだと思っております。

院に期待されていることをお聞かせいただけますか。

磯山／院長がお話を聞いた“世界人”という言葉に通じると思うのですが、眞のグローバル人材を育ててもらいたいと思っています。グローバルな人間になるためには、語学も大切ですが、日本の文化や歴史を理解し、世界を見つめる国際感覚を養う必要があります。保育所から大学院まで備え、同じ理念のもと、長期的な視点で教育できる西南学院なら、眞のグローバル人材を育成いただけるものと期待しています。

バークレー／時間をかけて教育できるのは、心の教育にも活かされています。西南学院の学生・生徒達には、キリスト教について最初は、「こんな考え方もあるのか」と感じてもらえるだけでもいいのです。

磯山／比較文化的な側面からも、若いときに宗教を学ぶのは大事だと思います。私自身、西南学院中学校時代に、宗教の授業を受けたことはその後の倫理観の形成に影響していると思っています。

バークレー／ところが、自身の中学時代を振り返って、印象に残る思い出などございましたか。

磯山／地域貢献のあり方も、地元で就職して地元の発展に貢献するだけでなく、海外で経験を積んだ後、地元に戻ってそれを活かしたり、中央から地元を支えたり、いろいろな方法があると思います。

バークレー／そうですね。地域社会への貢献と国際社会への貢献は一見、相反するもののよう思えますが、実は相補うものですからね。

磯山／地域貢献のあり方も、地元で就職して地元の発展に貢献するだけでなく、海外で経験を積んだ後、地元に戻ってそれを活かしたり、中央から地元を支えたり、いろいろな方法があると思います。

バークレー／西南学院が、会頭の今につながる好奇心を育むことができたのはうれしい限りです。

バークレー／私は、西南学院が、会頭の今につながる好奇心を育むことができたのはうれしい限りです。

磯山／来福する外国人観光客も増えていますが、福岡の人は開放的な気質なので、さまざまなお受け入れる土壤があると思います。西南学院の人は開放的な気質なので、さまざまなお受け入れる土壤があると思います。

バークレー／西南学院の学生・生徒達に限らず、福岡・九州をリードする人には、どんな素養が必要だと思われますか。

磯山／九州・福岡を拠点にしても、世界思考であります。

バークレー／西南学院の学生・生徒達に限らず、福岡・九州をリードする人には、どんな素養が必要だと思われますか。

磯山／九州・福岗を拠点にしても、世界思考であります。

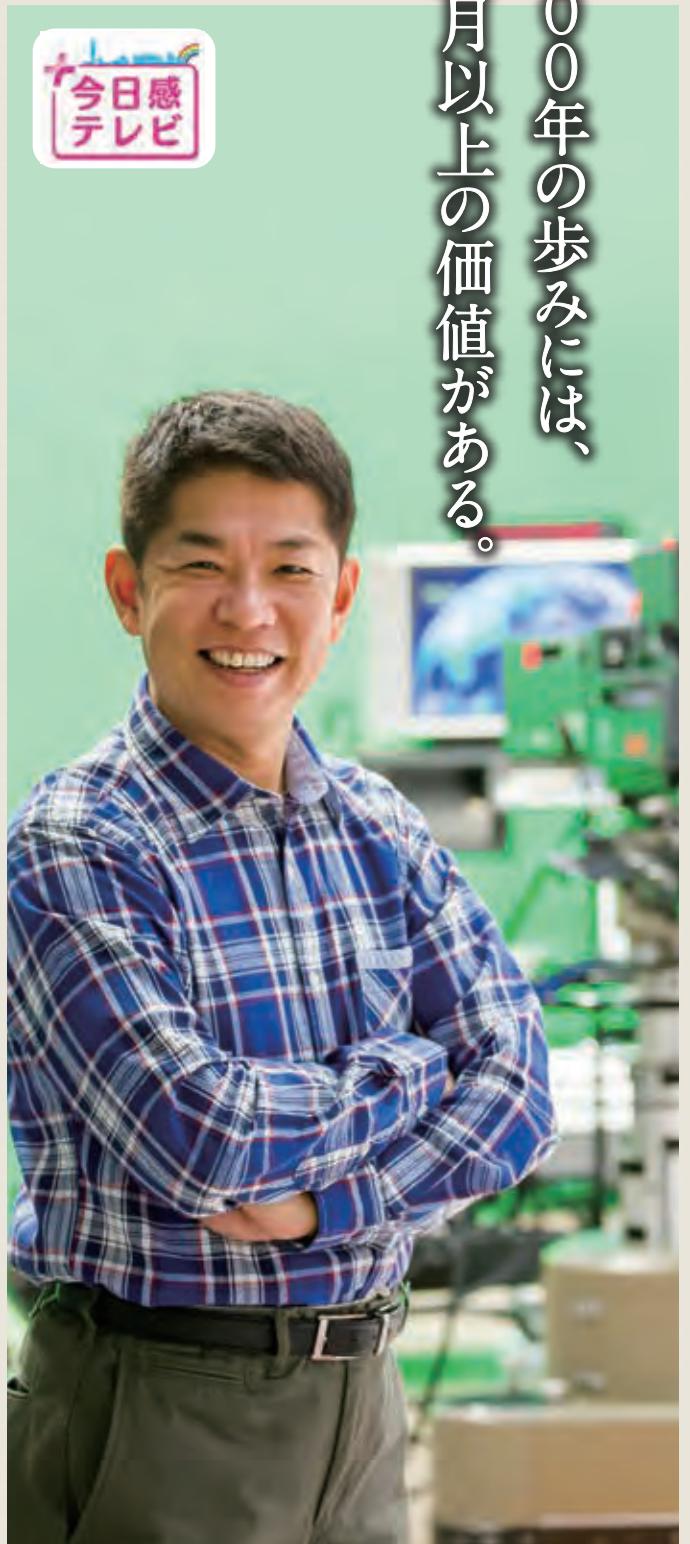
バークレー／西南学院の学生・生徒達に限らず、福岡・九州をリードする人には、どんな素養が必要だと思われますか。

磯山／九州・福岡を拠点にしても、世界思考であります。</p

# MESSAGE FROM THE GRADUATES

[西南学院創立100周年] 卒業生からのメッセージ

100年の歩みには、  
歳月以上の価値がある。



【プロフィール】 1966年生まれ。九州大学工学部航空工学科卒。九州大学大学院工学研究科応用力学専攻修士課程修了後、1991年、RKB毎日放送にアナウンサーとして入社。1995年、気象予報士の資格を取得し、日本初の気象予報士アナウンサーとなる。「今日感テレビ気象情報」「ヤン坊マー坊天気予報」などの個性豊かな気象解説が人気になり、防災士の資格も取得していく。近年は、地球温暖化、災害、防災などをテーマにした講演の依頼も増えている。著書に『たっちゃんの気象転結』(梓書院)。今春リニューアルした『今日感テレビ』にも出演中。

西南学院中学校時代は、香椎から西新まで、片道1時間半ほどかけてバスで通っていました。毎日通うのは大変でしたが、先生に勧められた科学雑誌をバスの中で読むことが多く、そのおかげで理科が好きになりました。理科の実験で私

RKB毎日放送株式会社  
制作・スポーツ局アナウンス部  
副部長／気象予報士  
龍山 康朗さん

が失敗した時は、普段優しい先生から怒られたこともありました。それも今となつては良き思い出です。先生には今までとても感謝しています。また、当時の思い出で鮮明に覚えているのが、チャペルで開かれた落語会のことです。初めて聞く落語は笑いつぱなしでした。プロの話術の妙に魅了された私は、それから「話す」ということに興味を持つようになつたのです。今思うと、チャペルで日本文化の落語会を行うなど、西南学院は当時から大らかだったと思います。

振り返ってみると、私にとって西南学院中学校で培つたものは多々あります。学びのプロセスや本質を教えてもら

えたのは本当に良かったと思います。何より、先生方が好奇心にあふれていらつしゃったので、それに導かれて私の好奇心も呼び起されました。現在、アナウンサーの職に就いていますが、科学が得意であることは、仕事においても強みになっています。この道に進んだきっかけはチャペルで聞いた落語ですし、西南学院中学校が、今の私の原点と言っても過言ではありません。

私は、西南学院の自由な校風が好きです。しかし、自由だからこそ、自分の責任も大きいと思います。西南学院で学ぶ人たちには、その自由さを生かしてさまざまで経験をしてほしいですね。西南学院

が今年で100周年を迎えることを、卒業生として喜ばしく思っています。私の娘も西南学院中学校を卒業し、現在は西南学院高等学校に通っていますが、親子二代、三代と西南学院で学んでいらっしゃる「家族も多い」とでしよう。地域にも深く根ざしています。100年の歩みは、歳月以上の価値があるのでないでしょうか。次の100年は、今以上に多くの皆さんに西南学院のことを知つてもらい、より大きな価値を生み出してほしいと思います。同時に私も、卒業生として西南学院の情報発信に努めています。

A close-up photograph of a chef's hands as they pipe white meringue onto a baking sheet. The chef is wearing a white chef's coat with a name tag that reads "フランス菓子" and "三葉". They are using a conical piping bag to create a grid of small, rounded peaks on a dark baking sheet.

1944年生まれ。大学卒業後は帝国ホテルに入社、菓子職人としてその後渡欧しパリなどで4年余にわたり菓子職人としての修業を重ね  
「フランス菓子16区」を福岡市・浄水通りにオープン。以来一切多店舗の作ったものは自分の目の届く範囲で売る」というポリシーを貫いてい  
国だけでなく、お菓子の本場フランスでも人気の高いダックワーズが  
案により創られたお菓子であることは広く知られている。その功績が認  
年「現代の名工(卓越した技能者)」受章、2015年「黄綬褒章」受章。

に熱中する日々を過ごしていました。学校は宿題を出さない時代で、今考える、生徒は家の手伝いで大変だらうという配慮があつたのかもしれません。中学校を卒業して55年以上経ちますが、当時の野球仲間とは現在でも親交があり、毎年集まつては当時の話で盛り上がっています。西南学院中学校、そして野球が结んでくれた大切な縁だと思っています。

西南学院は今年で100周年を迎えますが、本当に素晴らしいことです。私のお店は今年で35年目を迎えますが、その時どき、今を一生懸命に生きることで、ここまで歩んで来ることができました。その瞬間、その瞬間を一生懸命に生きる

とによって、歴史は着実に紡がれています。西南学院の100周年は先人達の努力の結果です。これから150年、200年と発展していくために、今、西南学院に携っている方々が、いかに頑張るかにかかると思っています。私はこれからも真っ直ぐ、お菓子と向き合っていきます。よりよい素材を使い、おいしくお菓子をお客様にお届けしたい。そのためには、日常のすべてを俯瞰する自らの哲学が必要だと思います。西南学院にも学院独自の培ってきた哲学があるはずです。その哲学を大切にしてたゆまぬ努力を続けられることを願っています。

今を一生懸命生きることで  
歴史は紡がれる。



**【プロフィール】** 1944年生まれ。大学卒業後は帝国ホテルに入社、菓子職人としての礎を築く。その後渡欧しパリなどで4年余にわたり菓子職人としての修業を重ねる。1981年、「フランス菓子16区」を福岡市・浄水通りにオープン。以来一切多店舗化せず、「自分の作ったものは自分の目の届く範囲で売る」というポリシーを貫いている。今や日本全国だけでなく、お菓子の本場フランスでも人気の高いダックワーズが三嶋隆夫の考案により創られたお菓子であることは広く知られている。その功績が認められ、2007年「現代の名工(卓越した技能者)」受章、2015年「黄綬褒章」受章。

フランス菓子16区  
オーナーシエフ  
三嶋 隆夫さん  
たかお  
みしま  
1951年・西南学院早緑幼稚園  
(現.. 舞鶴幼稚園)卒業  
1960年・西南学院中学校卒業

に母が作ってくれた弁当を分け与えていたのを今でも鮮明に覚えています。園には“人に優しく”という教えもあったので、私はそのような行動をとったのかもしれません。

校は宿題を出さない時代で、今考えると、生徒は家の手伝いで大変だろうとう配慮があったのかもしれません。中学校を卒業して55年以上経ちますが、当時の野球仲間とは現在でも親交があり、毎年集まつては当時の話で盛り上がっています。西南学院中学校、そして野球がこんなでくれた大切な縁だと思っています。

西南学院は今年で100周年を迎�니다が、本当に素晴らしいことです。私のお店は今年で35年目を迎えますが、その時どき、今を「一生懸命」に生きることで、ここまで歩んで来ることができました。その瞬間、その瞬間を「一生懸命」に生きる一

とによって、歴史は着実に紡がれていきます。西南学院の100周年は先人達の努力の結果です。これから150年、200年と発展していくためには、今、これからも真っ直ぐ、お菓子と向き合つていきます。よりよい素材を使い、おいしくお菓子をお客様にお届けしたい。そのためには、日常のすべてを俯瞰する自らの哲学が必要だと思います。西南学院にも学院独自の培ってきた哲学があるはずです。その哲学を大切にしてたゆまぬ努力を続けられることを願つています。

## アメリカンフットボール部が西日本代表決定戦に出場の快進撃！

アメリカンフットボール部が九州学生リーグにおいて全勝し、2014年度に続き2年連続15回目の優勝を果たしました。続いて、11月1日に平和台陸上競技場で行われた全日本選手権の西日本代表準々決勝戦に進み、中四国代表の広島大学と対戦。両チームともに序盤は得点に繋げることはできませんでしたが、第1Q後半に本学のWR#1岩永選手のタッチダウンにより先制。その後、第2Qで同点に追いつかれるものの、第3Qで3点、第4Qで7点をそれぞれ追加し、見事17対7で勝利を收めました。平和台ボウル最優秀選手賞(MVP)には、豊田選手が選ばれました。

続く三重県の四日市ドームでの準決勝戦では、東海代表の名城大学に先制点を許すも、堅い守りによって相手の攻撃を抑え、22対7で勝利しました。快進撃の勢いのまま臨んだ決勝戦は、関西代表の強豪・立命館大学が相手。第3Qでは、初めてのタッチダウンに200人を超える本学応援団が沸き上がり、校歌を歌つてスタンンドが一体となる場面もありましたが、善戦及び48で敗れ、甲子園ボウルへの出場はなりませんでした。

2009年に始まった本大会で、九州勢が西日本代表決定戦へ進出するのは史上初の快挙。アメリカンフットボール部のこれから活躍に、みなさんの熱い声援をよろしくお願ひいたします。



## 姜尚中先生の特別チャペルを開催しました。

12月3日に高校三年生を対象として、テレビ等で「活躍の政治学者・姜尚中先生をお迎えして特別チャペルを開催しました。

「学ぶ」と生きること—平和を作り出すために」というテーマで、「自身の体験に触れつつ、未来を担う若者に向け、人が「大人になる」ということについて、穏やかにかつ力強く語ってくださいました。

現代社会は様々な事を自由に選択できる時代である一方、安全柵の内にいても安全ではなく、リスクが非常に高まつた時代とも言え、その不安の中に生きなければならぬ若い者の状況と「学ぶ」ととは何かをお話しいただきました。

夏目漱石の『草枕』の冒頭文を引用して、これから時代を生き抜くためには「知」「情」「意」が鍵となること。特に自分の身体感覚を通じて知識と感性と意志を磨くことが文化の力となり、力によらず、文化の力に基づいた対話を続けることが平和を実現するのだというメッセージは、今後を生きる生徒たちに大きな示唆と勇気を与えてくれました。

卒業を前にして、社会へ出て行く三年生にとって、非常に示唆に富んだメッセージを贈っていました。



## 大自然の中で友と語らう 「林間学校」。

10月19日、23日、林間学校に行きました。

林間学校は修学旅行とは異なり、礼拝を中心据えた集団生活の場であり、日常生活を離れ、豊かな自然の中で共に学び、共に語り合うことを目的とする本校独自のプログラムです。

林間学校では、御殿場・東山荘と軽井沢・恵みシャレーを宿舎として、学年を二つのグループに分け、中日に宿舎を交代する形式をとっています。朝は早天礼拝、夜は特別礼拝と2回のチャペルがあり、清瀬福音自由教会牧師・岩井基雄先生のお話や、先生方のメッセージを聞きました。

軽井沢では班を作り、事前に綿密な計画を立てて自転車やバスを利用して軽井沢の街並みを散策します。浅間山の「鬼押出し」に出かけたり、富岡製糸場、草津温泉に向かう班もありました。

また、富士山五合目をトレッキングしました。富士山の約4分の1周を1時間半かけて歩きました。富士の雄大さに圧倒されると共に、日頃目にすることのできない自然の風景を満喫しました。

横浜中華街や浅草での自由行動もあり、充実した研修となりました。



## 学ぶことが多かった 「沖縄修学旅行」。

2月9日、12日、中学3年生が沖縄に修学旅行へ行きました。各クラス4人の実行委員を選出し、昨年11月から事前学習や準備を行いました。

1日目のテーマは「基地問題」。普天間基地や嘉手納基地の見学を行った後、ホテルに到着。長年、読谷村の米軍基地の現状について講演などを通して尽力してきた小橋川清弘さんから「自分たちの住む町を良くするのは自分たちであり、平和は自分たちの手で作り出すものである」と貴重なメッセージをいただきました。2日目のテーマは「沖縄戦」。摩文仁の丘の見学、平和の礎での慰靈式、ガマでの学習、沖縄戦証言による証言者交流集会が行われました。3・4日目のテーマは「沖縄の文化に触れる」。おきなわワールドに行つた後、読谷村民泊でグループごとに各家庭に分かれ1泊2日を過ごしました。最後に、国際通りで自由行動を取つた後、福岡へと戻りました。

今回の修学旅行では、生徒たち自身が「平和への思い」をこめて作詩・作曲し、音楽科のトム望先生が編曲した合唱曲「僕らの手で」を練習し、沖縄でお世話になった方へ披露しました。とても充実した修学旅行となりました。



## 「合唱発表会」を開催しました。

## 一年間の総まとめ!! 学習発表会を開催。

2月上旬、2年生から5年生の4学年の児童たちが一年間学習してきたことをもとに、さらに掘り下げたりさまざまな要素を加えたり発展させたりして、総まとめを行った学習発表会を開催しました。各学年、テーマを決めてから約1ヶ月間にわたり懸命に練習してきた劇や歌などを披露し、最後は全学年で「ぶるさと」を合唱。(参考された多くの保護者の方々から大きな拍手をいただきました)。

一年間ともに学んできた仲間と一緒につくり上げたものを発表する学習発表会は、児童にとって喜びと素晴らしいを感じる場となっています。また、本校の理念である隣人愛と知恵を育むといった観点から、友人を認め合い、そして自分の成長を感じるという場にもなっています。



## 異文化に学ぶワイングツア。



2月下旬に6年生の児童が「ワイングツア」として、ケアンズ(オーストラリア)へ行つてきました。4泊6日のツアーアーの主な目的は、隣人愛を育む(異文化にふれ、他国の文化に敬意をもち尊重する態度を養う)こと、知恵を育む(海外での生活を通して、見聞を広めるとともに国際化時代を生きるために基礎となる力を養う)ことです。レインフォレストエクursionでのアボリジニ文化体験、キュランダ鉄道やグリーン島(グレートバリアリーフ)での自然体験、また、グループでのケアンズ市内見学や、動物園見学などさまざまな活動を行いました。

その中でも現地校、ウイットフィールドステイト校での体験は児童にとって大きな思い出となつたようです。現地の児童とパーティを組み、一緒に遊んだり、ランチを食べたり、また授業も一緒に受けたりすることができました。児童からは「勇気をもつて話してみたら英語が通じてうれしかった」「英語は分からなかつたけれど、身振り手振りで仲良くなれた」「チャレンジすることが大切だと感じた」といった感想が聞かれました。異文化を知り、異文化に学ぶオーストラリアでの「ワイングツア」は、これから中学校へ進む児童にとって、大変意義深いものとなりました。

## 年長の光組が社会見学で 福岡市動物園へ行きました。



## 伝統行事のもちつき大会を開催しました。

12月15日、2学期終園前の火曜日に、毎年恒例のもちつき大会を開催しました。舞鶴幼稚園のもちつき大会は、教師とお母さん達とで準備を進め、当日はお父さん方の力を借りて行われる一大イベントです。今年度も、平日にもかかわらずたくさんの方々が参加してくださいました。

このイベントは、日本の季節行事としてのもちつきを伝えていきたいという思い、そしてお父さんお母さん方が蒸しあがつたら、まずはお父さんたちの力でよくこどもを設置して火をおこし、もち米を蒸しました。お米が蒸しあがつたら、まずはお父さんたちの力でよくこね、その後子どもたちはお父さんたちと一緒に杵を持ち、お餅をついていきます。杵の重さに苦戦しながらも、頑張る子ども達。お父さんたちの威勢のいい掛け声で仕上げを行い、おいしいお餅が出来上がりました。最後に、お母さん達に、あんこ、きなこ、醤油のりの味付けをしてもらい、みんなでおなが一杯食べて満喫したもちつき大会となりました。

## 「平和」を感じ、守り、創り出す力を育みます。

早緑子供の園では、これから将来を担っていく子どもたちに、「平和を感じる豊かな感性」を持ち、その平和を守ることを当然の使命として担い、そこからさらに「平和を創り出す」搖るかない強い意志と力を持つて生きてほしいと願っています。

早緑子供の園は、1945(昭和20)年戦中・戦後の荒廃の中、福岡保育専攻学校(保育者養成校)校長の福永津義先生が中心となり、戦災孤児や引揚げ孤児を学生さんらとともに校舎の一部で収容し、その保育・養育にあたったことから始まりました。「早緑国児園」と呼ばれたその施設には、数年で累計65名の子どもたちが収容され、中には、ミルクを与えようとしても自分で吸う力がなく、亡くなつた赤ちゃんもいたそうです。その後、児童さんは歩いて片道50分ほどです。途中、急な上り坂もありや働く人に触れ合う機会として社会見学を企画し、特別な場所へ出かけていく日があります。この日の目的地は小笠の山にある福岡市動物園。幼稚園のある鳥飼からは歩いて片道50分ほどです。途中、急な上り坂もありましたが、今までいろいろな場所へ出かけている光組の園児は、さすがに鍛えられていることもあり、わいわいと学習発表会。日常の学習では味わうことのできない感動体験は、児童たちの心を豊かに育むことにもつながっています。

舞鶴幼稚園年長光組では、普段の散歩とは違い、自然や働く人に触れ合う機会として社会見学を企画し、特別な場所へ出かけていく日があります。この日の目的地は小笠の山の上有る福岡市動物園。幼稚園のある鳥飼からは歩いて片道50分ほどです。途中、急な上り坂もありましたが、今までいろいろな場所へ出かけている光組の園児は、さすがに鍛えられていることもあり、わいわいとみんなで楽しみながら目的地の動物園へ向かいました。到着後は広い動物園の中をくまなく散策し、たくさん動物を見たり触れたりしました。友達と一緒に回ると楽しげが何倍にも膨らみます。金網越しのすぐ近くにいるヒョウを怖々と眺めたり、猿山のサルを見ながら「この中に入って遊びたーい。だって楽しそうだもん」「あのサル〇〇くんに似てない!」などの会話があつたり。豆汽車ポッポ号にみんなで乗つたり、お弁当も広場で食べたり、動物園の一日を満喫しました。

幼稚園までの帰り道では、さすがの光組の園児たちにも疲れが見えましたが、みんな最後までしっかりと歩きました。この時期の光組ならではの充実した社会見学となりました。

## 保育実践研究「食事で育つ人と関わる力」に取り組んでいます。

保育士による実践研修が、全国社会福祉協議会による2015年度「植山つる児童福祉研究奨励基金(研究B・共同研究)」による助成対象に採択されました。

早緑国児園の0~2歳児クラスでは、保育士が子どもをグループに分けて少人数で担当し、親密な関わりによって家庭と同じような細やかな育児によって情緒の安定を図ることを目的とした育児担当制といふ保育形態を採用しています。その中で食事場面の子どもたちに注目すると、食べる过程中に主体的に向かう姿と、子ども同士で関心を持ち合う姿が相互に作用し合つて時間がなりました。そこで、おいしく楽しい食事は子どもの心と身体の健康を支えているのではないか?ということに着目して研究に取り組みました。保育所の役割は多様化し、保育現場は多忙化する一方ですが、同時に保育の質の向上が求められている現代、子どもと保育士の日々の営みの意味や意義を検証し、省察し、明日の保育に生かしていくことは、保育現場の責務だと考えています。研究成果については学会発表を行い、さらに研鑽を積みながら保育実践力を高めるとともに、ここに得た知識を子どもたちに返していきたいと思い、保育士一同で取り組んでいます。

## 西南学院早緑子供の園



西南学院小学校

西南学院舞鶴幼稚園

西南学院早緑子供の園



西南学院からのお知らせ

# 創立100周年記念事業

2016年の創立100周年に向けて、西南学院ではこれまでにさまざまな事業を展開してきました。

創立100周年を迎える今年も継続してイベント等を開催していく予定です。

2016年3月18日に無事竣工を迎えた百年館。西南学院の創立100周年を記念して建設されたこの建物は、「建学の精神の継承」、「生徒・学生、教職員の学び」「同窓生、地域との交流」の拠点を目指します。1階部分には、西南学院史資料センター展示室、研修会・交流会などを多目的に活用できるホールや同窓会関連施設を、2階部分には、共同学習室やミーティングスペースを、3階部分には、学院史資料センターの閲覧室や博物館関連施設を設置します。



西南学院百年館の外観

西南学院百年館（松緑館）が  
竣工しました！

2016年3月18日に無事竣工を迎えた百年館。西南学院の創立100周年を記念して建設されたこの建物は、「建学の精神の継承」、「生徒・学生、教職員の学び」「同窓生、地域との交流」の拠点を目指します。1階部分には、西南学院史資料センター展示室、研修会・交流会などを多目的に活用できるホールや同窓会関連施設を、2階部分には、共同学習室やミーティングスペースを、3階部分には、学院史資料センターの閲覧室や博物館関連施設を設置します。

西南学院史資料センターは2016年10月下旬のオープンに向けて準備を進めています！

編集後記



高取焼陶板の校歌（百年館1階エントランスホール）

（広報課 S・A）

西南学院百年館の1階に設置する展示室にて、これまで学院が収集してきた貴重な資料を展示公開する予定です。

西南学院百年館の1階に設置する展示室にて、これまで学院が収集してきた貴重な資料を展示公開する予定です。

“Seinan, Be True to Christ.”を建学の精神とする西南学院では、2016年4月1日に西南学院史資料センターを設置します。同センターは、『①創立者C・K・ドージャーや学院関係者の事績やその歴史を明らかにし、建学の精神の涵養、歴史への理解とその継承を図ること』、『②学院、バプテスト教会など学院に連なる全ての関係者に係る資料の収集・保存及び調査・研究を行い、それを広く公開して交流の拠点となり、学院の教育や研究の充実、発展に資すること』を設置目的として、資料の収集・整理・保存、調査・研究、資料の展示公開、自校史教育などの役割を担います。

西南学院百年館（松緑館）にあなたのお名前を残しませんか

春は出会いと別れの季節である。今春、

小学校長と早緑子供の園の園長を務めた和佐健吾先生が退職された。元中学校・高等学校の教諭で校長も務めた和佐野先生、聞けばご自身が学んだ6年間を含め、西南学院で52年の時を過ごしたそうだ。男子校時代の先生の姿が懐かしさとともに思い浮かぶ。私学の良さ、西南学院の良さのひとつは、ここにあるのではないか。足を運べばそこにはあの時の、懐かしい先生がいる。

卒業生を取材した際、皆さんがそれ口にするのは、西南学院の自由な雰囲気についてである。その自由な雰囲気は、誰によって作られたのか。私にとっては和佐野先生かもしれないし、和佐野先生にとってはその先輩たちであろう。

西南学院は本年、創立100周年を迎える。100年の時は、先達の英知と努力によって刻まれた。私は、西南学院が好きだ。西南学院には自由がある。西南学院は強制しない。建学の精神という搖るぎない基盤があるから、強制する必要がないのだ。

次の100年。これからも西南学院は、建学の精神を守り、園児、児童、生徒、学生の成長を支え、彼らを見守り続けるだろう。

## 西南学院の新たな100年のために

### 【西南学院創立100周年記念募金事業へのご協力のお願い】

西南学院創立100周年記念募金事業には、多くの皆さまに募金事業の趣旨に賛同いただき、多大なるご厚志をお寄せいただいております。ここに改めまして心よりお礼申しあげます。

この創立100周年を機に、ご子女の学校生活をさらに充実させるために、下記の事業をはじめとする記念事業を各学校・園において計画し、順次、着手しております。

2015(平成27)年度の課外活動においては、高等学校で女子ハンドボール部、ヨット部がインターハイ・和歌山国体に出場し、大学では硬式野球部の全日本大学野球選手権大会(神宮大会)出場(57年ぶり)、アメリカンフットボール部の全国ベスト4進出など、華々しい活躍がありました。また、東山彰良さん(高・大・院卒)の直木賞受賞をはじめとする同窓生の各界での活躍などもあり、日経BPコンサルティングの「大学ブランド・イメージ調査(2015-2016)」で九州、沖縄、山口の主要55大学のうち大学ブランド力第2位を獲得しました。

次の100年に向かってさらに発展を遂げるために実施しております募金事業については、まだ目標額(30億円)に達していない状況です。引き続き、皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

#### 創立100周年記念募金の主な対象事業

##### 世界に貢献できる人間教育 小学校・中学校・ 高等学校の施設設備・ 教育環境の充実



小学校および中学校・高等学校のグラウンドの改修のほか、教育機器を整備することにより、教育環境の充実を図ります。

##### 世界に貢献できる人間教育 グローバル人材育成



グローバル教育の拡大、学部学生が海外留学できる環境を整備し、世界に貢献できる人材を育成します。

##### 世界に貢献できる人間教育 奨学金基金の創設



学生、生徒、児童、園児の修学を支援するために、創立100周年を記念して奨学金基金を創設します。

##### 人や地域との絆、感謝・貢献 ステークホルダーとの ネットワーク強化



同窓生、保護者、地域、その他学院にかかわる全ての関係者とのネットワークを強化します。また、ザザエさん通りを生かしたまちづくりや近隣の商店街行事等への協力など行政、地域、企業との連携によるまちづくりに協力します。

##### 時代を先取りする学術研究 大学新図書館の建設



学院と地域を結びつける新たな「大学の顔」として、知の拠点となる図書館を建設しています。利用開始は、2017(平成29)年4月の予定で、ディスカッションスペース等からなる「ラーニング・コモンズ」を設置し、アクティブラーニング機能を展開します。

##### 人や地域との絆、感謝・貢献 百年館(松緑館)の建設

同窓会関連施設および同窓生の交流空間、西南学院史資料センターなどを備えた百年館(松緑館)が2016(平成28)年10月にオープンします。館内には、ご寄付をいただいた方のご芳名(個人5万円以上)を刻銘した銘板を設置いたします。

## 西南学院百年館(松緑館)に あなたのお名前を残しませんか

ご寄付いただいた方(個人5万円以上、団体10万円以上、法人50万円以上)は、百年館内に設置予定の「銘板」にご芳名・団体名・法人名を刻銘し、末永く顕彰いたします。

※2016(平成28)年10月の百年館オープン時には、本年3月までにご寄付の入金確認ができた方のご芳名を掲載する予定です。  
4月以降に受領いたしました寄付者ご芳名につきましては、順次、掲載をしていく予定です。

詳しくは、100周年記念募金HPをご覧ください。

[西南学院創立100周年記念募金](http://www.seinan-gakuin.jp/bokin/)

検索

<http://www.seinan-gakuin.jp/bokin/>

募金事業に関するお問い合わせ先

西南学院 総務部 校友課 [本館1階]  
TEL:092-707-0452 FAX:092-707-0453  
e-mail:koyu@seinan-gakuin.ac.jp